**平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》**

| 都道府県・指定都市番号 | 40 | 都道府県・指定都市名 | 福岡県 |
|---|---|---|---|
| **学校名**（児童数） | あさくらしりつあきづきしょうがっこう<br>朝 倉 市 立 秋 月 小 学 校 （１２９名） | | |

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地:福岡県朝倉市長谷山50番地
電話番号:0946－25－0455
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL:(4 月以降掲載予定)
http://www.city.asakura.lg.jp/www/contents/1297757598572/files/aki.pdf

## 【研究成果のポイント】

○研究課題番号:2小学校
○研究対象教科等:外国語活動
○研究のキーワード:オリジナルダイアログ，場や場面の設定，相手意識，系統性を考えた年間指導計画
○研究成果のポイント:慣れ親しんだ英語表現を生かしたダイアログにより，進んで友達と関わり，英語を使ってコミュニケーションを楽しもうとする姿が見られるようになった。

## 【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

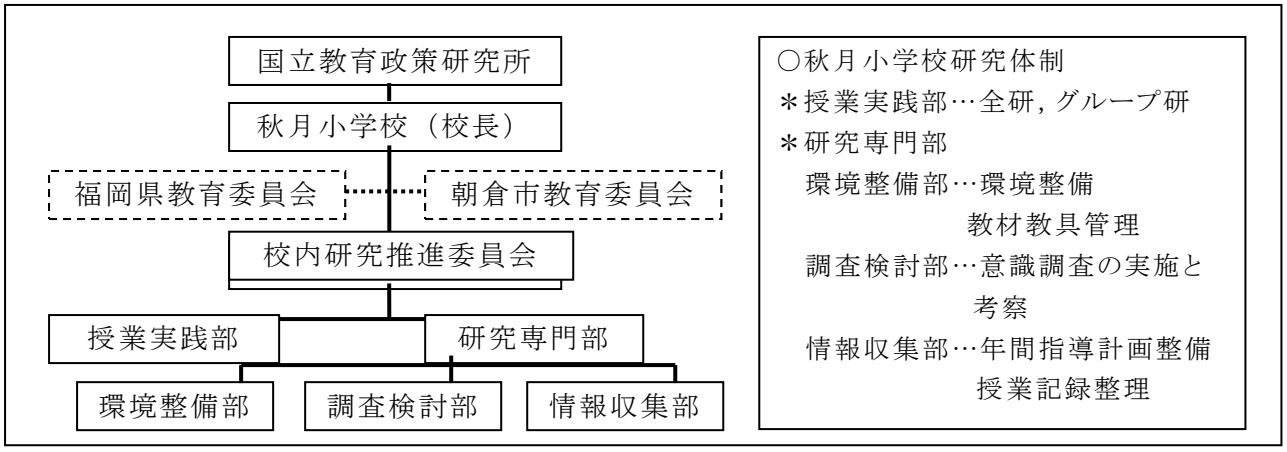
英語を使ってコミュニケーションの楽しさを味わう児童の育成
～ダイアログを生かした活動を通して～

（２）研究主題設定の理由

本校の児童は自分の意志や考えをはっきり伝えられない面が見られることから，児童に主体的に相手とかかわろうとする力やコミュニケーション力をさらに育成したいと考えた。そのためには，児童に慣れ親しませたい語彙や表現を何度も繰り返し聞いたり言ったりする活動と，必然性のある場面設定におけるコミュニケーション活動が大切であると考える。そこで，児童に身近な場面でのダイアログを設定する。このことにより，児童がダイアログの内容から考えて，相手意識をもち，コミュニケーション活動ができるようになると考える。また，これまで慣れ親しんだ表現を生かしてダイアログの一部に児童の考えを取り入れることによりコミュニケーションを図る楽しさを体験させることができると考え，本主題を設定した。

※本校の考える「ダイアログを生かした活動」とは，新しい英語表現や音声，リズムを聞き，繰り返しまねて，慣れてきた英語表現を繰り返したり，自分で試したりして学んだことを生かして伝え合う活動

（３）研究体制




（４）１年間の主な取組の経過

| | |
|---|---|
| 平成25年度 | ○研究構想の共通理解・理論研修・研究計画作成<br>○国立教育政策研究所担当者訪問による研修（授業構想・授業公開による指導）<br>○研究授業（全学年２回実施　事前の模擬授業　研究協議会）<br>○年間指導計画作成（系統性を考慮した全学年の年間指導計画作成）<br>○児童の意識調査実施　○成果物の作成（指導略案作成　ＤＶＤ・ダイアログ集）<br>○研究成果報告会実施（平成 26 年 1 月 28 日） |

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○ダイアログを生かした活動づくり

・内容的にまとまりのあるメッセージを伝えながら，児童がコミュニケーションを楽しんだり，英語表現に慣れ親しんだりすることができるように，児童にとって身近な場面のダイアログを位置づけた活動モデルを設定し，積み上げを図る。

・対話モデルとしてのダイアログに，児童自身が慣れ親しんでいる外来語のもととなる英語表現や既習の語彙や表現を用いて英語表現を付け足させ，よりオリジナルな対話にしていく。又，児童が発話した内容を書きおこしダイアログ集を作成し，次年に生かすようにする。

○場面の設定

・ダイアログを構成する際には，児童にとって，身近な場面，友達に伝えたくなるような場面，体験を通してイメージし易い場面等を取り上げ，それぞれの場面にふさわしい英語表現で構成する。

・どのような場面で何を伝えるのか，相手は誰でどのような状況なのかといった目的意識や相手意識を持たせ，伝え方を工夫させる。

○「Hi,friends!」を活用した全学年の年間指導計画の作成

・高学年は，「Hi,friends!」で扱われている語彙や表現を活用し，オリジナルの年間指導計画を作成する。生活や学習，行事，遊び等に関する身近な語彙や表現を用いて低学年は，単語を中心に，中学年はフレーズを中心に指導計画を作成する。

・遊び等に関する身近な語彙や表現を，生活や学校での学習，地域の行事等を踏まえて配列するようにする。

**【研究成果とその意義等】**

（１）研究成果と課題

＜成果＞

○　児童の生活に身近で，友達に伝えたくなるような場面等を取り上げ，ダイアログを構成したり，慣れ親しんできた英語表現を考えさせたりしたことで，児童は意欲的にコミュニケーション活動に取り組むことができた。

○　目的意識や相手意識を持たせ，伝え方を工夫させたことで，児童はモチベーションを高め，英語表現に慣れ親しみ，楽しんでコミュニケーションすることができた。

＜課題＞

●　他教科で積み上げてきたものを活用したり，外国語活動でつけた力を他教科で活用する等，他教科との関連を図るようにする。

（２）研究成果の意義等

○　ダイアログを位置づけた活動モデルを設定したことで，児童は新しい英語表現の音声やリズムを積極的に何度も口ずさみながらまねようとし，その結果，恥ずかしがらずに英語を発音したり，ジェスチャーを交えて伝えようとしたりする等，コミュニケーションへの積極的な態度につながった。また，英語らしい発音やリズム等の技能面も高まったことを感じている。

○　「Hi,friends!」を生かした全学年の年間指導計画は，高学年の外国語活動につながるように，低学年は単語を中心に，中学年はフレーズを中心に作成したことで多くの学校に参考になるのではないかと考える。

○　さらに，身近な場面でのダイアログを設定することで，場面や伝える相手の立場や状況を考え，声の大きさや話す速さ，話す時の姿勢等も工夫するようになり，思考力・判断力・表現力も高めることができると考える。

（３）指定期間終了後の取組

今後も児童が英語を使ってコミュニケーションの楽しさを味わえるように，「伝えてみたい，聞いてみたい」と思えるような活動を仕組み，ダイアログをさらに生かしていけるような活動構成を考えていきたい。また，小中連携を図りながら，９年間を通して児童を育てていく体制づくりをしていくためにも，連携を深めていきたい。